

業種問わず雪の影響大

1月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

月後半の全国的な寒波や降雪により、製造業・非製造業ともに売上減少などの大きな悪影響が見られる。また、恒常的な需要の減少が様々な業種で見られ、景況感は悪化している。

製造業	食料品		パンは前半の売上が好調も、後半は雪の影響を受け例年並みに推移している。菓子には雪の影響でやや落ち込みが見られた。製麺は大手企業の寡占化や新商品の拡大等で苦戦が続く。酒造は普通酒と本醸造酒が落ち込んでいる。
	繊維・同製品		桐生織物は梅春用が少量出荷・短納期を強いられ苦戦するも、ジャカード織物の増加に期待している。伊勢崎織物は和装関係の需要が低迷し厳しき続くが、広巾は順調な売上を維持している。繊維製品は例年よりも受注が少ない状況である。
	窯業・土石製品		雪の影響により、コンクリートブロックは現場作業に遅れが出て出荷が減少、生コンは出荷が大幅に落ち込んでおり、碎石は業務が一時停滞、地域差が見られるものの景況感は悪化傾向が続いている。
	機械・金属		電機は大手の決算期末の生産調整で例年以上に生産が減少するも、下請へのコストダウン要請が続く。富士重工関連は今秋から開始されるインプレッサ北米生産への対応に追われる。鍍金は国内生産量が頭打ちで、企業間格差が鮮明である。
	その他の製造業		木材は製品安の原材料高による厳しい状況が続く。紙加工品は一部食品関連・自動車関連等は引き続き好調だが、雪害や低温の影響で野菜関連は減少している。印刷は稼働日が少ない中、降雪にも見舞われ状況悪化が続く。
非製造業	卸売業		高崎卸団地は引き続きマイナンバーや軽減税率の対応を懸念している。太田卸団地は取引先(自動車関連)の設備投資や研究開発費の増加を背景に機械器具関係の売上が増加している。農産物卸は寒波と雪の影響により品薄で相場高騰となる。
	小売業		中古自動車は降雪でオークションの開催が減少し、出品台数・手数料ともに若干減少している。燃料小売は継続的な単価下落で、在庫の評価損に加え資金繰りが悪化している。商店街は寒さや降雪で客足が低調、季節商品の動きも悪い。
	サービス業		温泉旅館はインバウンドの富裕層やぐんまプレミアム宿泊券等の利用が増加し、入込数が増加している。不動産取引は沼田市域では大型スーパーやホームセンターの郊外化が進み、中心市街地の空き店舗は借り手がつかない状況にある。
	建設業		建設工事は受注の減少が続く。電気工事は若年労働者の減少やベテラン技術者の高齢化等で人手不足が続く。また、本年4月から始まる電力小売自由化への対応策を検討中である。鉄構は見積物件数に多少回復の兆しが見られる。
	運輸業		寒波で灯油の輸送は増えたが、全体的に低調な荷動きは変わらず。スキーバス事故の影響で監査・処分基準の再強化を懸念している。小口輸送は自動車部品関係の動きは悪いが、医薬品やひな人形により売上・件数ともに増加している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況(前年同月比)です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 110.2(前月比+0.4%)「県統計課・12月」
- 販売電力量 119,442万KWh(前年同月比▲7.0%)「東電群馬総支社・12月」
- 住宅着工戸数 1,099戸(前年同月比▲2.7%)「県建築住宅課・12月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.89倍・有効1.27倍「群馬労働局・12月」
- 大型小売店販売額 245億円(前年同月比+5.8%)「経済産業省・12月」
- 消費者物価指数(全国) 103.5(前年同月比+0.3%)「総務省統計局・12月」
(鉱工業生産指数・消費者物価指数は22年=100とした指数)